

市民活動支援センター「日進市にぎわい交流館」情報誌

にぎわい news

Vol.30



仕事と家族、
だけじゃない
わたしの居場所



気づいた今が、 はじめどき。

子どもが生まれてから、地域や社会のことが気になるようになった——そんな声をよく聞きます。

保育園の待機児童、学校の安全、地域のつながり。日々の暮らしの中で、「このままでいいのかな」と感じる場面が増えた。でも、仕事に育児に忙しい毎日では、何か行動を起こす余裕なんてないし、自分にできることがあるのかも分からない。

そんなときこそ、頼ってほしい場所があります。市民活動支援センターにぎわい交流館は、「ちょっと気になる」から「やってみよう」への一歩を応援する場所です。活動の情報を知りたい、仲間を見つけない、相談したい——そんな思いに寄り添いながら、その思いをカタチにする方法を一緒に探していきます。

この冊子では、同じように仕事や家庭でがんばりながら、どんなふうに活動を始めたのかをご紹介します。特別なスキルや時間がなくても、できることはきっとあります。あなたの「気づき」が、まちを少しずつ変えていく力になるかもしれません。まずは、できることから。あなたの一歩を、私たちは応援します。

もくじ

4-12

わたしのためと みんなのためと
市民活動ってどんなこと？

- ・ 日進岩藤川自然観察会
- ・ 特定非営利活動法人 幸せつむぎ and にこり日進
- ・ NPO法人 ファミリーステーション Rin
- ・ 日進市国際交流協会 (NIA)
- ・ 特定非営利活動法人 Earth as Mother
- ・ NPO にじのイルカ
- ・ My Life

13

ちょこっとコラム
・ わたしの市民活動がはじまったとき

14-21

日進市にぎわい交流館てなにするとところ？

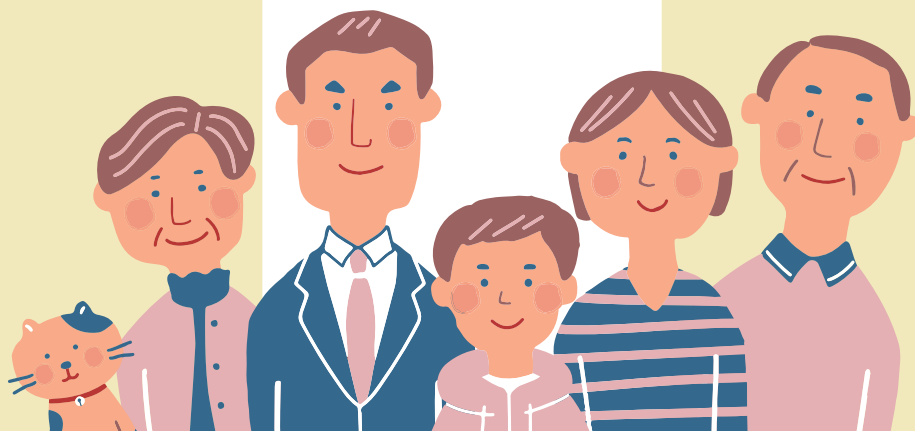
22-23

コラム
・ 村田の考察 市民活動っておいしいの？
・ こんにちは 館長です。





わたしのため



市民活動ってどんなこと？

団体として活動しているみなさん取材しました。

みんなのまち





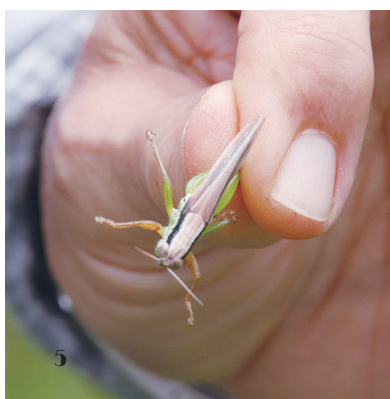
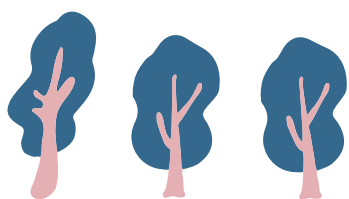
にぎわい交流館には300近くの団体登録があり、
その立ち上げのきっかけはさまざま。

自分の得意なことを誰かのために使えないかと考えた人。
自分の困りごとから社会の不具合に気づき、
解決を目指すために団体を作った人。
誰かの活動を手伝っていたら自分でも団体を作りたくなった人。

どんなきっかけでも、社会のために活動する「利他」が、
その人自身の人生を豊かにする「利己」につながっています。

市民活動とか、ボランティアとか、なにがおもしろいの？
と思う人もたくさんいるでしょう。

でも、少し足を踏み入れてみれば
「だれかのため」が「じぶんのため」になる、
じつに豊かな時間が流れていることに、
きっと気づいてもらえると思います。





生き物って不思議でとても面白い。

子どもといっしょにこのまちの自然を感じよう。



「観察会では、自然に親しみながら自然の中を歩くことの楽しさを感じ、日常生活の中でも自然との関わりを意識して地域の生物多様性に関心を持って生活つなげよう」として行っています。

トンボが捕まったとき、促されて胴体をつまんでみると羽ばたこうとする振動が指先に伝わり小さな命が生きているのを実感しました。その後、見上げた木の上でセミがカマキリに捕食されて

「おたまじやくしの里親」を募って保護につなげようとして行っています。

参加者から歓声が上がりました。

日進市の東には東部丘陵と呼ばれるまとまった緑地があるのをご存じでしょうか。緑地を作る雑木林の中をきれいな川が流れ、大きなため池が水をたたえています。

自然の中に行くとき独特の色や形だけでなく、においやかすかな物音、鳴き声に耳を澄ませるなど五感を総動員して生命を感じます。そこから自然への敬意が生まれ、人間も地球上の一生物であることに思い至るのかもしれない。

参加者大募集中！

毎月第1・第3日曜日に、日進市総合運動公園の野球場側の東屋で集まり、周辺の観察会を開催しています。申し込みはいりません。開催日と時間をお確かめの上お出かけください

【日進岩藤川自然観察会】

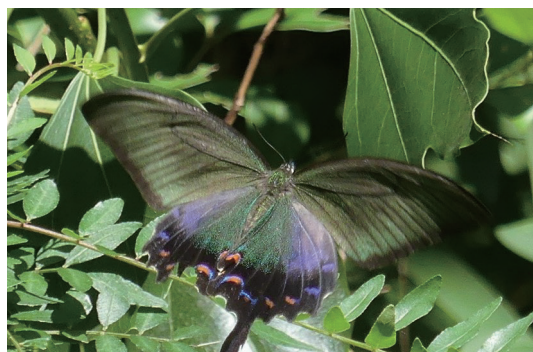
日 程：毎月第1・第3日曜日
時 間：9時30分～12時（予定）
参加費：100円
服 装：明るい色の長そで、長ズボン、帽子等

にぎわい交流館
団体紹介ページ



「小さな子の観察眼には目を見張るものがある」と話す鬼頭さんたちと一緒に身近な自然の中に隠れている「たくさん」のふしぎを見つけに行きませんか？

いるのに出会ったりしました。





特定非営利活動法人 幸せつむぎ and にこり日進
障がいのある人もない人も共に育ち、歩んでいくことを理念として掲げているNPO法人です。緑区で「ぶつうのおばちゃんたち」が集まってスタートしましたが、無償ボランティアでは限界があり、雇用を生み出し持続可能にするために法人化しました。

現在は「うちの近所でもやってほしい」というニーズに応え、緑区・日進・大府・みよしの4事業所を運営しており、にぎわい交流館にはその1つ「幸せつむぎ and にこり日進」が登録されています。

and にこり日進では、重症心身障がい児、医療的ケア児を対象とした支援をしており、アート活動を療育に取り入れています。そして、そこで描かれた作品は、愛知県美術館などに展示し、

特定非営利活動法人 幸せつむぎ and にこり日進

どんなに重い障がいをかかえていても、

誰もがこのまちで普通に暮らしていけるように



多くの人々に鑑賞されています。

取材の日は、名古屋学芸大学の学生さんと子どもたちが、部屋いっぱい画材を広げ、アートを楽しんでいます。色とりどりの蛍光色の絵の具を使って、思いのままに描いていきます。円筒形の発砲スチロールに色付けするのですが、そんな前提は「シラナイヨ」とでも言うように、子どもたちはまず絵の具の感触を確かめ、それを楽しみ、次に自分の洋服や手や足を彩っていきます。まさに自由。なんの作為もなく、ただただ色を楽しんでいました。鼻にはチューブがつながり、発語はなくても、「楽しい！」という感情は伝わってきます。

「ここで過ごすのは10時〜16時。保護者の方は、その間お仕事に出られたり、おうちで自分の時間を過ごされたりと、様々です。他にご兄弟がいる場合は、いつも待たせたり我慢させたりしがちなその子に集中して気持ちを傾けることもできます」と、通所支援事業責任者の西尾由起さん。やりがいは何ですか？と尋ねると「1歳未満から大人まで、その人に長く関わり続けられること。かけがえのない仕事だとありがたく思っています」と、まっすぐな答えが返って

きました。

児童発達支援のお仕事は大変だろうな、という先入観があったのですが、西尾さんはじめスタッフのみなさんはとても明るく軽やかで、生き生きとお仕事されていました。鮮やかなアートと子どもたちにも元気をもらい、障がいのある人を健常者が支えるという一方の関係ではないことに改めて気づかせてもらったひと時でした。



スタッフ大募集中！

看護師・保育士の資格をお持ちの方、資格がなくても子どもに関わる仕事に意欲のある方、一度「and にこり日進」のお部屋をのぞいてみませんか？

【特定非営利活動法人 幸せつむぎ and にこり日進】

ところ：日進市栄二丁目202番地

電話：0561-56-4555

メール：nishio.shiawasetsumugi@gmail.com

特定非営利活動法人
幸せつむぎ
ウェブサイト



and にこり日進
instagram



幸せつむぎ
instagram



日進市の子育て支援のバイオニアであるファミリーステーションRin。地域の母親たちを中心に2004年にNPO法人としてスタートし、昨年度には法人設立20周年を迎えました。日進市子育て支援センターを指定管理者として運営する他、居住支援事業、訪問サービス事業などを展開しています。また、2023年9月にスタートした子どもの居場所「南ヶ丘子ども食堂」「香久山子ども食堂」もあり、日進市の子育て中の家庭にとって、とても頼りになる存在です。



NPO法人 ファミリーステーションRin

赤ちゃんから大人まで、

地域で切れ目のない子育て支援を

を加えて総勢29人の大盛況。メニューは焼肉、ポテトサラダ、キャベツの千切り、ゆでブロッコリー、お味噌汁、ごはん。お米は1升炊きました。デザートはボンデケーキという焼き菓子です。

「さあさあごはんの時間ですよー、みんな順番に手を洗ってね」とスタッフが声をかけると、それまで思い思いに遊んでいた子どもたちが、お母さんと一緒に洗面台に行き手を洗い、配膳を待ちます。和室二間に備えられた座卓に着席して、みんな手を合わせて「いただきます」。わいわいとにぎやかに、そして和やかに食事が進みます。

久しぶりに参加したというお一人は、11歳を筆頭に5人の子育てをしている元気なお母さん。5人の子育てはいいが、ですかと訊くと、「毎日楽しいです」と笑顔で答えてくれました。お話を聞いている間、一番下の1歳のお子さんは、お隣に



座っている別のお母さんの膝に上ったり、抱っこしてもらったり。その姿はとても自然で、普段から助け合える関係ができていることがわかりました。もうお一人は10歳5歳8歳のお母さん。「ここはゆっくりさせてもらえてありがたい。毎回来ています」と言います。子育て真っ最中の毎日が矢のように過ぎていく中、つかの間の癒しの時間になっているのだと思いました。

「始めたばかりの頃は利用者が集まらず、苦労しました。18歳未満は無料なので、資金は助成金をいただいて賄っています。赤字は法人の会計から穴埋めしています。毎回のメニューを考えることも大変かな」と話すのは理事の浅井裕子さん。「来てくれた人の『おいしい』『楽しかった』という声がいっぱいあります。今後も継続していけるようがんばります」。

Rinさんのスタッフは、自身も利用者だったという人が多く、子育て支援の人的資源の循環がともうまく回っている例だと思えます。地域での切れ目のない子育て支援を目指して、朗らかにしなやかに事業を展開している姿に、未来への希望を感じました。

わたしたちこんな団体です

指定管理者として日進市から委託を受け、にっしん子育て総合支援センターの運営を担うほか、子育て支援者養成講座を開催するなど、子も親も自立していきいきと生活できるまちを目指して活動しています。

instagram



【NPO 法人 ファミリーステーション Rin】

ところ：日進市香久山二丁目 601 番地 Chip in 香久山 203 号
(Rin のうち) ※子ども食堂の開催場所ではありません。

電話：052-838-6868 メール：rin@npo-rin.org





日進市国際交流協会 (NIA)

確かな日本語力とともに、

日本の文化や国民性を少しでも伝えられたら

日進市国際交流協会（通称NIA）は設立33年。外国人の相談窓口業務やホームステイを含む異文化交流、多文化理解講座の開催、友好都市との親睦、「広報につしん」の英語・中国語・韓国・朝鮮語版の発行、そして、にほんご教室の運営と日本語ボランティア養成講座の開催等を主な事業として活動しています。

日本語は、世界で最も難しい言語のひとつとされています。3種類の文字（ひらがな、カタカナ、漢字）の存在、多様な敬語の使い分け、表現のあいまいさや主語の省略、豊富なオノマトペや同音異義語などに加え、文化的な背景を理解する必要もあり、日本語を母語としない学習者にとっては身に付けるのが大変だと言われます。

また日本では、急速な少子高齢化による人口減少と働き手不足で、グローバル化が進んでおり、それは日進も例外ではありません。外国人の増加に伴い、日本語を学びたいというニーズも増え続けています。

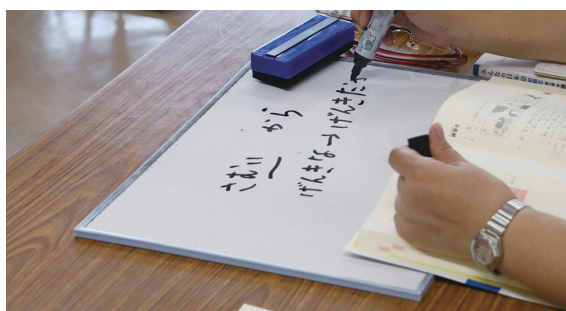
にぎわい交流館で毎週水曜日（3月と8月はお休み。年間36回）開催されるにほんご教室では、日本語を学びに来る多様な国の外国人学習者と日本語ボランティアでとてもにぎやかです。お話しやテキストを読むだけでなく、イラストや、小さなホワイトボードを使って意思疎通を行います。教室はほとんどがマンツーマン。教える方も教えられる方も、とても生き生きと楽しそうです。

「日本人は、お茶を淹れた時に『お茶を淹れました』とは言わず『お茶が入りました』と言います。それが日本人特有の相手に気遣いをさせない自然な態度ですよね。本当は言語を教えるだけではなく、そういう国民性や文化も伝えたい。



そのニュアンスを伝えるのはなかなか難しいですが」と話すのは、日本語部会の加藤修子さん。「学習者の中には、正しい日本語を話せるようになるために、文法もしっかり勉強したいといった人が多いです。また、日本語検定の合格を目指している人もいます。合格したら一緒に喜びを分かち合います」と言います。活動していてやりがいを感じるのはどんな時ですかとの問いには、「教えた構文を使って自分の言葉として話しているのを目の当たりにした時、この上ない喜びを感じます」とうれしそうに話してくださいました。

日進市国際交流協会には若手の会員も増え、ボランティアの担い手も次々と育っているようです。学生時代は英語が得意だったんだけど…外国の人と交流してみたいな…そんなことを思っている人、一度ににぎわい交流館2階にあるNIAさんの扉をノックしてみてください。きっとすてきな出会いがありますよ。



ボランティア募集中!

異文化交流を通して、お互いの国の文化を理解して、共に仲良く生活するためにボランティア精神のもと、さまざまな活動に取り組んでいます。

【日進市国際交流協会 (NIA)】

ところ：日進市蟹甲町中島 277-1
(にぎわい交流館内)

電話：0561-73-1131

日進市
国際交流協会
ウェブサイト



にほんご教室は令和8年度から土曜日開催の予定

特定非営利活動法人 Earth as Mother

安心安全に食べられる作物と

地球環境にやさしいコミュニティをつくる



特定非営利活動法人 Earth as Mother は、「未来の子どもたちが安全で安心して食せるおいしい作物づくりを中心とした真農業の推進と地球環境にやさしいコミュニティを創造する」をテーマに全国規模で活動している団体です。日進市では、令和元年度にESD総合共育プロジェクトチームを発足し、日進市委託事業「オーガニック農業体験事業」で市民向けに米作り体験と野菜作り体験の機会を提供しています。

夏の終わりのある日、取材のため本郷地区にある畑にお邪魔しました。里芋の花が咲き、キュウリやナスなどの夏野菜が育つ中、畑作業のボランティアに来ていた野菜づくり体験コースの参加者のみなさんが、堆肥を運び野菜の株元に撒いたり、大きく実ったキュウリやピーマン、ナスなどを収穫したりしていました。

「フィールドは人が育ちあう場」と話すのは副理事長の村野政章さん。「一粒の種もみが芽を出しどんどん大きくなって稲穂が実り、収穫後の稲藁を圃場に混ぜ込むまでの循環を体験することは、記憶

に残りDNAに刻み込まれ、それは生きる力につながります。ぜひたくさんの方の親子や子どもたちに体験してほしい。」

畑作業の途中、落ち葉堆肥づくりの体験もありました。この落ち葉は岩崎城の敷地内からもらい受けたもので、2トントラック2台分をここに運んで堆肥にして使っているそうです。参加者は堆肥に触ったり匂いを嗅いだりして、熟成しているかどうかを確かめます。市内の落ち葉を堆肥にし、それを里芋の堆肥として使い、収穫したものの一部が日進市の学校給食に使われる。これぞ地産地消。Earth as Mother が謳う「真農業」の意味が少しわかった気がしました。

参加者のみなさんに田んぼや畑の循環を五感で感じてほしいという思いは、食育にもつながっています。「愛知県の伝統料理である五平餅、酢味噌そうめん、鬼饅頭などを料理教室で教えています。2、3才くらいから親と一緒に参加している子もいます。スーパードで見える大根やにんじんには葉っぱがないけれど、本当はそれも食べられる。農薬がかかっている



野菜は嫌がるのに、化学肥料を使わず無農薬で育てて自分の収穫した野菜は『おいしい』と言って食べます。そんな体験をたくさん積んでほしい」と話すのは、理事で食育スタッフの黒田晴未(るみ)さん。

畑には1歳になったばかりの子どもを連れた若い両親が参加していて、「触ったり匂いを感じたりするなど、畑に来て様々な体験をさせてあげたい」と話していました。わざわざ遠くに出かけなくても、まだ残る自然や田畑を体験できるのは日進市ならではの子育てです。Earth as Motherの活動に参加したこの子が、生きる力を身につけ、自分のふるさと日進に誇りと愛着を持ちながら健やかに育ちますように。そんなことを願った夏の日でした。

わたしたちこんな団体です

完全オーガニックの昔ながらの農法を体験・実践していただける講座などを開催しています。

【特定非営利活動法人 Earth as Mother】
メール: office@earthasmother.com



介護美容の専門学校で学んだ3人が、「介護美容をもっと知ってほしい」という思いで立ち上げた団体です。メンバーは看護師・エステティシャン・介護福祉士を本業として働いています。

本紙を発行するにあたり、施術の様子を取材させていただきました。「ネイルなんて初めてよ」と、スタート時は少し緊張した様子の利用者さんでしたが、手をオイルトリートメントしてもらって、優しい声で話しかけられている間に緊張がほぐれていきます。

使用するのは、身体にやさしい水溶性のマニキュア。『どれにしようかしら。あま

NPO にじのイルカ

きれいになって心も明るく。

介護美容で介護予防を。



楽しくお話ししている間にシールなどで飾られた可愛いネイルが完成。「とつても華やかになりましたね」「そうね！うれしいわ！今日はお台所仕事お休みしちゃお」と、みなさん満足して帰っていかれました。後日来館された時にも「みんなに自慢したのよ」「いろいろ用事していても自分の手が目に入るでしょ。そのたびにうれしくてねえ」と話されて

りたくさんあるので目移りしちゃうわね」と言いながら、机に並べられた色とりどりの小さなボトルを前に話す様子は、少女のよう。気持ち明るくなつていくのがわかります。「爪の形がきれいですね」「この色はお肌の色にとっても合っていますね」「お好きな色を選ばれるのが一番いいですよ」などと話しかけ、会話をしながら施術していきます。「苦髪楽爪」って知ってる？苦労人は髪が伸びるのが早くて、楽してる人は爪が伸びるのが早いです。」「そうなんですね、勉強になりました」「こういうのって男の人はいないでしょう？」「最近男性もネイルされる方が増えてきましたよ」「へえー！時代は変わったねえ」。



いました。

「ネイルは身体の一部として持って帰っていただけるので、色がついている間はずっと楽しんでいただけて、うれしいです」と話すのは、代表の彦田七重さん。オイルトリートメントやネイルアートでみなさんの表情が明るくなって、元気になるのが伝わってくるので、逆にその元気をいただいているのだそうです。「介護美容は介護予防にもつながります。祖父母へのプレゼントなど、家族のイベントに取り入れてもらって、家族の輪が広がるとうれしい」。

「今後は他の団体さんとコラボするなどして、活動のフィールドを広げていきたい」と、夢は広がります。

自分の得意なことや好きなことが、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりにつながるとしたら、そして、それを一人一人が実践できたら、最高にすてきなまちになる。うきうきと帰途につく利用者の方の後ろ姿を見送りながら、そんな未来が思い浮かびました。

コラボ団体大募集中！

美容を通して「触れ合いによる安らぎと結びつき」を感じていただきたい。「外観を整える」ことで明るい気持ち、前向きな気持ちを持ち、社会参加ができるようになり、ご本人様の幸福感だけでなく、ご家族の笑顔も増える様なサポートをしたいと考えています。

【NPO にじのイルカ】

メール：kazu.nana.s@gmail.com





MyLife

自分の人生を生きるには、

自分で考えて答えを出し続けるしかない



「子どもに関する問題を大人しかない場で話し合っ決めてのっておかしいんじゃない？」その違和感が、MyLifeという団体を立ち上げたきっかけでした。MyLifeは大人も子どもも互いの意見や思いを共有し、一人一人の個性を理解し、探究することを目的として立ち上がった、未成年だけで構成された団体※です。現在のメンバーは4人。中学生3人高校生1人で構成されています。

「人生を生きる上で、対人関係で悩んだり問題を抱えたりすることは誰でもありますよね。自分は自分らしさを軸に人生を生きていけるけれど、そうできなくて悩んでいる同年代の人もいます。そういう人に僕たちのイベントに来てみてつて伝えたい。自分だってまだまだ経験不足なので何かを教えてあげることはできないです。でも、仲間と一緒に考えることで、殻を破るきっかけにできると思います。最後は自分で考えて答えを出すしかないんだけど。そう語るリーダーの久木日向多さんは、若干16歳の高校1年生。子どもから提示されたテーマに沿って一緒に考えたり意見を交換したりするイベントを運営しています。自分の祖父くらいの人の参加もあり、その意見について、「正直『頭固いなあ、常識に縛られ過ぎていて』と感じることもあるけど、反発はないです。それもその時代の価値観なので」と余裕の構え。多世代だからこそ見える多様な考え方があり、それを見聞きできることがとても楽しいと言います。

活動のやりがいを見つめると、「イベントのアンケートで『視野が広がった』とか



『いろんな人の話が聞けてよかった』とか、褒めてもらえることやほりうれしいし、やってよかったと思います」と率直な答えが返ってきました。

今後の展望としては、「あと2年で成人なので、未成年(子ども)が開催するイベントではなくなる。自分の立ち位置やイベントのあり方などをシフトしながら、これからも仲間と一緒に続けていけたら」と意気込みを語ります。読者の方へのメッセージは「子育てなどに悩んでいる人、いろんなところに参加してみたいと思います。もちろんMyLifeにも。ぜひ僕たちのイベントに来てみてください!」とのこと。若い人の意見や考え方に触れてみたい人、参加してみたいかがでしょうか。発想の転換や新たな発見があるかもしれませんよ。

※便宜上、対外的な代表は保護者の方になっています。

わたしたちこんな団体です

instagram



大人も子どもも互いの意見・思いを共有し、一人一人の個性を理解し、探究するために、講座等のイベントを企画・運営しています。



ちよこつとコラム

わたしの市民活動がはじまったとき

にぎわい交流館のスタッフになって6年が経ちました。6年前の私はまさか自分が市民活動に関わるとは思っておらず、それどころか、市民活動という言葉があることすら知りませんでした。そんな私になにが起こったのか。

きっかけは「落語」です。

子どもが生まれてから、大好きな映画を見たり小説を読んだりする時間がなく、現実とばかり向き合うのが辛くなってきた頃に、落語なら家事をしながらきける！ということに気づいて、ドはまりしました。どれくらいはまったかというと、推しの落語家に出演を依頼して子ども向けの落語会を主催してしまうほど。そして、その落語会の開催チラシを公共施設に配架して欲しい、という一心で市民活動団体としてにぎわい交流館に登録しました。それが、私の市民活動の始まりです。

初めは、「落語が好きだから」という理由しかありませんでしたが、団体登録をするためには、この活動が日進市にとってどんな良い影響をあたえるのか、ということを考え

る必要があります。そこで「子どもの想像力を養う事ができる」という落語の良さを再発見し、自分の好きなことが誰かのためになることがわかって、とても嬉しかったのを覚えています。また実際、落語会に来てくださった方から「子ども向けのこういうイベントをさがしていた」「ここで落語を見てから子どもが落語が大好きになった」という声をいただくことが何よりも嬉しかった。

その後、活動をしていく中で「子どもの権利」というものに出会い、それを啓発するために、さらに1つ団体を立ち上げ、そこからまた様々な人とのご縁がつながって全部で4つの団体に所属することに。その間、にぎわい交流館のスタッフにならないかとお声掛けいただき、今にいたりします。

わたしが団体登録した動機はいささか不純ではあるのですが、それでも、登録したことで「社会にとってどうか」という視点を持つ事ができ、おもしろい人たちと出会えたことは、わたしの人生の中でも大きな財産になっています。

日進市にぎわい交流館スタッフ
黒田麻衣子



そもそも

日進市にぎわい交流館で なびにすごすところ?

日進市の公共施設の一つ
「日進市にぎわい交流館」
を知っていますか?

日進市役所の東隣
に20年前からある
のですが、その存
在自体を知らない
人や、知ってい
るけど何をして
いるかは知らない
という人は多
いと思います。

この冊子を手に
とってくださいた
みなさん。

にぎわい交流館の
使い方を知って、ぜひ
利用してみてくださいね。



超

基本情報



場 所

日進市役所の東隣

開館時間

8:30～21:00

市民サロン 8:30～20:00・会議室等 9:00～20:30

開館日

土・日・祝日を含む毎日

年末年始(12月28日～1月4日)は休館

役割

2005年11月19日に開館して以来20年、
市民活動支援・国際交流・大学交流・市民交流を
4本柱に、情報受発信のプラットフォームとして
運営しています。



大事な
4本柱です。

市民活動支援

国際交流

大学交流

市民交流



休憩する。



1階のサロンはどなたでもご利用いただけます。市役所から出発するバスの待合所としてはもちろん、お友達とおしゃべり・読書や勉強・待ち合わせにもご利用いただいています。ランチの販売があるときなどは多少

混雑しますが、基本的には時間制限もなく、持参したものの飲食もできます。

Free Wi-Fiとコンセントもご利用いただけます。

夏は涼しく、冬は暖かくしてお待ちしています。

※大声や占領など、他の方に迷惑と判断した場合は、お声をかけさせていただきます。



喫茶もあります。(※)



本や雑誌も置いています。



小さなお子さんと一緒に楽しめる絵本や、にぎわい交流館スタッフおすすめの書籍や雑誌などを置いています。

にぎわいにならなする?



(※)喫茶のご注文は16:00まで。主にコーヒーと紅茶のご用意があります。諸事情により中止している場合もあります。

A close-up photograph of a white bowl filled with Japanese curry. The curry is a thick, brown sauce containing chunks of meat, potatoes, and carrots. A large portion of white rice is piled on the right side of the bowl. To the left of the main bowl, there is a small white dish containing pickled vegetables, including shredded cabbage and green beans. In the background, a small container of Japanese curry sauce is visible on a wooden table.

市民活動団体が「ワンデイシェフ」としてランチ・喫茶の営業をしています。

手作りでおいしいランチやコーヒー・お菓子でくつろぎの時間を過ごしてくださいね。



A large display of Japanese postcards in a rack, showing various designs including landscapes, animals, and text. The postcards are arranged in rows, with some featuring illustrations of nature, animals, and people. Some have Japanese text, while others have English text. The rack is made of dark wood or metal.

日進市や市民活動団体などが開催するイベントなどのチラシを探すことができます。ボランティアを募集している団体もあります。

あかちゃんのオムツ交換台もあります。



会議室を利用できます。

日進市にぎわい交流館には、4つの会議室があり、
無料でご利用いただけます。



1と2をつなげると、一番大きい部屋になります。
定員は51人。講座や講演、ワークショップなど、
たくさんの人を呼ぶイベントの開催などにも
よく使われます。
1と2はオーディオンカーテンで仕切ることが
でき、隣の音が気にならなければ、どちらか
だけを予約することもできます。

会議室 1・2

定員は16人と一番狭い
ですが、靴を脱いで入
れるのでリラックス
した雰囲気で使用する
ことができます。
子育て支援や学習支援
など、子どもと一緒に
使用する団体に人気
があります。



和会議室

唯一、1階にある会議室
です。階段を上る必要
がないため、高齢の方
や、身体の不自由な方、
絵画などの大きな道具
を使う団体に人気があ
ります。窓が大きく
開放感があります。
定員は24人です。



会議室 3

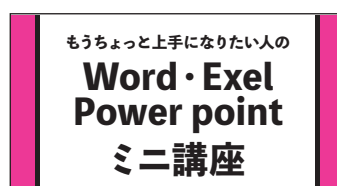
団体登録する
てきなこと

窓口でお問い合わせください。

日進市にぎわい交流館ウェブサイト



団体向け講座・相談を 受けられます



団体のスキルアップや困りごとの解消のための講座を開いています。「こんなことを教えてほしい」という団体の声から生まれた講座も多くあります。

団体向け講座

日進市の市民自治活動推進補助金に応募することができ※。その他、各種補助金の選り方や申請書の書き方、他団体とのコラボなど、活動に関する事なら、なんでもご相談いただけます。

※市民自治活動推進補助金事業は年度ごとに実施されますが、その年度の予算成立を前提としており毎年必ず実施されるものではありません。

活動相談

マーケット ワンデイシェフ

団体の得意なことを活かして、
物品の販売や飲食物の提供ができます。



団体登録するとできることは他にもあります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

団体の登録方法

登録条件

日進市内で、
非営利かつ
公益的な活動をして
いること



非営利とは

利益を目的としていないということです。
イベントの参加費や、会費などを徴収することはできますが、たくさんお金が集まったからといって、団体メンバーで分配することはできません。経費を差し引いて残った利益は、次の活動資金として使う必要があります。
ただし、あらかじめ予算として計上していれば、人件費を支払うことはできます。

公益的とは

自分たちだけのためではなく、たくさんの人のためになるということです。
例えば、友人知人だけ集まって楽しむための団体は登録できません。友人知人の集まりから始まったとしても、入会したいという人がいれば受け入れるとか、その活動が不特定多数の人のためになっていれば「公益的」ということになります。
(障がい者支援や高齢者支援など、支援・活動の対象が限定されていることは問題ではありません)



登録の手順

1 にぎわい交流館に相談する

どんな活動をしたいのかを、
にぎわい交流館スタッフが
ヒアリングします。

2 書類を提出する

団体登録申請用紙のほか、
会則・予算書・決算書・
代表者の身分証明書のコピーなどが必要です。
詳しくは、ヒアリングの際にお話しします。

3 登録団体証が郵送される

書類の提出から10日〜14日で
審査をさせていただき、
登録要件に当てはまるものが
認められれば登録となります。



よくある質問

ひとりでも団体をつくれるの？

団体メンバーの人数は問いません。
ひとりでも団体として登録できます。

企業や会社、個人事業では
登録できないってこと？

営利を目的とした活動とみなされるため
基本的には登録できません。
しかし、社会貢献(CSR)部門があり、
会計が本体から独立していれば
登録していただけます。
その場合は、団体名の一部に
企業や会社、個人事業の名称が
使われていても構いません。

日進市民じゃなくても
登録できるの？

他市町に住んでいる人でも登録できます。
ただし、主な活動範囲に日進市が
含まれていること、
日進市民のためになる活動をして
いる場合に限ります。

村田の考察

市民活動って おいしいの？



村田尚生（むらた・たかお）さん／愛知学院大学 総合政策学部 総合政策学科・教授

特定非営利活動法人まちの縁側育くみ隊副代表理事の他、日進市環境基本計画の策定に携わった市民によって結成された特定非営利活動法人にしん市民環境ネットの理事などを歴任し、現在も様々なまちづくり活動に参加している。

里山研究に力を入れ、特にきのこ類に対する思い入れが強く「きのこ博士」の異名をもつ。

「市民活動」と四文字熟語で書くと、なんとも堅苦しいですね。「しみんかつどう」って書くとしゃわらかい。私自身は「まちづくり」を専門的職業としているのですが、これも「街造」と書くことや堅苦しい。ここでは、「しみんかつどう」（かつどうではない）っておいしくいただけるのかについてお話していけたらと思います。

「しみんかつどう」をしている人に、きっかけを聞くと、結婚して子どもが生まれたとき、今の環境や社会や行政や政治の問題に気付いたのが始まりです、と答える人がたくさんいらっしゃいます。生まれてきた子どものために何とかしなければ、と一念発起された。

そこから10年、20年と続けている人を見ると、ある特徴があります。それは、「しみんかつどう」をおいしくいただけただ人です。

では、どうおいしいのか。

1つ目は、人とつながるおいしさです。一人で悩んで、おかしくなりそうなときに、同じ悩みを共有する人や、助けてくれる人に出会ったり、場合によっては酒食をともにして本当の意味で美味しかったり。

2つ目は、成長できるおいしさです。何もできないと無力感に苛まれているとき、誰かに相談してみようと少し動いただけで、次に何をすればよいのか、誰をたよればよいのか、次から次に目の前が明るくなっていく。少しずつ自分自身が成長し、いつの間にか相談される側になり、支援することができるようになっている。

3つ目は、住んでいるだけの場所がほっとできる居場所になるおいしさです。ベッドタウンでの都市的な暮らしの中で、まちで会った人とあいさつさえすることさえなかったのが、どこに行っても知り合いにあつて、まちの情報

をおしゃべりする。どこに何があり、どの季節にどんな楽しみがあるのか。美味しいランチが食べられるお店は？子どもが安心して楽しめる公園は？…。

最終的なおいしさは、最初に感じた問題が少しずつ改善し、良い方向に向かっていること。劇的に改善することはないかもしれませんが、自分が動いたことで、まわりが動き、うまくいけば行政や政治が動く。結果的に、このまちが少しずつだけ良くなっている。

ここで話したことは、フィクションではありません。私が知っている「しみんかつどう」をやっている人の多くが経験していることです。少しでも、「何かの問題に気付いてしまった」という人は、「どうせ何もできないから」とか、「市役所に任せておくしかない」とあきらめないで、「しみんかつどう」をはじめてみませんか。あなたの人生に潤いをもたらす、おいしいの連続がまっていると思います。

こんにちは

館長です。

37年前、家族の転勤で、地縁も血縁もない日進に引っ越してきました。当時、娘は1歳で、知り合いゼロの土地でのワンオペ育児。子どもは可愛かったけれど、やはり孤独でした。そんな時に少しお話するようになった公園のお砂場友だちに、子育てサークルを紹介してもらったのが、わたしの市民活動の始まりです。

そして、その子育てサークルのお世話役から、子育て交流会実行委員会の委員長を任せられ、子育て情報新聞を仲間と毎月発行し、日進市環境基本計画の策定委員になり、子どものまちづくりへの参画のサポートをし、環境系NPOの理事や事務局の仕事をし、市民活動センター設立準備会のメンバーになり、今は「にぎわい交流館」と名前がついたそのセンターで館長をしています。

こんな風には書き連ねると、なんだか大層立派な人物のように思われるかもしれませんが、全くそんなことはないのです。私自身は高邁な思想や溢れる情熱などとは無縁の、「社会課題を解決するのだ」的な決意もあまりない、ただのめんどくさがり屋の怠け者。市民活動してるのね、えらいねとか言われても「いえいえ、市民活動なんてそんな立派

なことじゃないですよ」と謙遜ではなく本気で思っていました。

ただ、少し気になることや、こうだったらもっといいのになと思うことに、自分の好きなやり方で少しずつ関わらせてもらうご縁があった。すると、そこで素敵な仲間と出会えて、どんどん楽しくなっていくって、それが今日まで続いているのです。ただそれだけ。

これを読んでくださっているあなたが、忙しい日々の中でも何かに気づいて、「こうなればいいのに」と思うことがあるとしたら、気負わずにちよつと動いてみられるといいなと思います。自分の好きなことや得意なこと、興味があることを活かせる楽しいですよ。きつと、仕事や家族以外のかけがえのないつながりや、これからの自分を支えてくれる宝物のような出来事に出会えますよ。

取り組みたいことが見えている人、何から始めたらいいかわからない人、市民活動って何？って思っている人、どなたでもいつでも会いに来てください。にぎわい交流館で待っています。

寺田裕美（てらだ・ゆみ）
／日進市にぎわい交流館館長

2020年、にぎわい交流館館長に就任。その後すぐにコロナ禍となり、右も左もわからないままなんとか業務をこなす日々が始まる。市民として環境活動等にも参加していたが「中間支援者」としての視点でまちづくりを考えるという新たなフェーズに入っている。

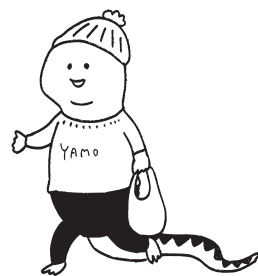
編集後記

この冊子の発行にあたり、元気に活動している団体のみなさんのお話を聴きました。どの人もそれぞれの持ち味を活かし、自分流にいきいきと活動していっちゃって、聴いている私もうれしくなったり、やる気が出たり。とっても楽しかった。「まちづくり」とか言っちゃうと、いきなり遠くにいる誰かが何とかしてくれることというイメージがあるかもしれない。でも、これを読んで、自分らしく暮らすことや自分らしく生きることと「市民活動」や「まちづくり」は矛盾なく存在すると思って、「こうなるといいな」「少しやってみようかな」って動き出す人が、一人でも増えるといいなと思っています。私がお会いした人たちのように。

（寺田）

にぎわい交流館にはよく、ヤモリがやってきます。昔からヤモリは「家守」といわれ、その家を守ってくれる縁起のいい生き物だとされています。「日進市にぎわい交流館でなにするとこ？」のコーナーに登場した「常連のヤモリさん」はそんなことが理由で生まれたキャラクターです。「なんとなく近寄りたいたい」と思われがちな当館ですが、少しでも親しみを持ってもらえるといいなと思います。

（くろだ）



ランチやマーケットも 開催しています。

登録団体のみなさんによる手作りのランチや
それぞれの得意を活かして作られた品々が並ぶマーケットです。



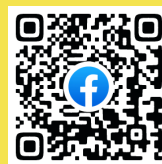
喫茶も

あります。



コーヒー・紅茶がございます。
お休みしていることもありますので、ご了承ください。

SNSで発信しています。
ぜひフォローしてくださいね！



本誌に関する ご感想大募集！

本誌は、市民のみなさんに日進市にぎわい交流館のことを知って
いただくために、日進市にぎわい交流館のスタッフが、企画から
取材、誌面のデザインまで行って作成しています。本誌を読んで
みてどのように感じたか、ぜひ教えていただけると嬉しいです。
よりよい情報発信に繋がるよう、今後の参考にさせていただきます。

アンケートフォーム



お答えいただいた方の中から抽選で5名さまにQUOカード(500円分)をプレゼントします。
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

応募締切：2025年12月31日